

〇〇してみました世界のフィールド

# 中国の教会の過去と現在を訪ね歩く

新居 洋子  
日本学術振興会特別研究員



ライデン大学で開催された国際アジア研究会議にて（二〇一九年）  
教令を探して  
迷い歩いてみました

数百年前に活動していたキリスト教宣教師の思考を知るためにはどうしたらよいか……。歴史を掘り起こすために現代中国のフィールドを巡り歩く文献研究者が、出会った教会の過去を紐解く。

## 文献研究者が「歩く」意味

わたしは、明・清時代の中国で活動したカトリック宣教師について研究している。そのためわたしにとつての「フィールド」とは、まず何よりもこれらの宣教師による報告や、彼らが参照した漢文や満文（満洲語）の文献、当時中国で作成された関連公文書などを所蔵するヨーロッパや中国語圏の図書館、文書館だといえる。



濟南最大のプロテスタント教会、經四路基督教堂。この日は日曜礼拝に集まった信者で2階席まで満杯だった（2010年）

とはいえ図書館や文書館へ行くだけで、二六〇一八世紀の中国で宣教師が考えていたことやそれを取り巻く文脈をすっかり再現できるわけではない。宣教師たちが日々どのような通りを歩き、どのような人びとと接していたのか。何を食べ、どんな気候のもと、暮らしていたのか。このようなことは、文献を読むだけでは意外とわからない。

そこで現地の教会（中国語で「教堂」を訪ねてみる）になる。もちろん、

当時から長ければ数百年の時間が経っているわけで、災害や戦禍で原形がわからなくなっているものも多く、そうでなくとも現況から当時の様子が直接わかるわけではない。しかし堂内で祈る人びとの姿を眺め、信者たちのくつろいだ雑談を小耳にはさみ、周囲の通りを歩くことで、若干の痕跡を「感じる」ことはできる。

## 中国各地の教会を訪ね歩く

このようなあまり理由らしくない理由から、わたしは諸用で中国のさまざまな地方を訪ねるたびに、その地の教会を訪ね歩くことにしている。

鬱蒼とした真夏の緑のなかに灰色の煉瓦造りの礼拝堂が静かに建ち、月並みで恐縮だが「天空の城」を髣髴とさせる妙に現実離れた佇まいで、時を忘れてみとれてしまった。とはいうものの、建物はしっかり現役で、回廊にはびっしりと洗濯物がかけられ、それもあいまって独特の雰囲気を出していた。

敷地全体はかなり広く、礼拝堂の近くには中国式の美しい庭園が併設されている。あとで調べてわかったことだが、この敷地はもともと清代の画家戴鏞の別荘で、李樹という官僚へ売却され、「菴園」の名を冠した庭園がつくられたとのこと。また礼拝堂と同じ様式で「精神科」の文字が掲げられた建物もあり、これも気になったのであとで調べてみると、戴荘天主教堂は九四八年に人民解放軍に接収され、精神病院として使用されていたようである。

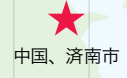
この教会にはラテン語と漢文の石碑が掲げられている。ラテン語のほうには「Jos. Feinadenetz S.V.D.」、漢文のほうには「聖言会司鐸福若瑟」とある。「S.V.D.」および「聖言会」は、ドイツ出身のアーノルド・ヤンセンが一八七五年に創設したカトリック修道会のひとつ、神言会のことである。戴荘天主教堂こそは、神言

会から初めて中国へ派遣された宣教師ヨゼフ・フライナーデメッツ（中国名：福若瑟、一八五二〜一九〇八年）が設立した教会なのであった。ここを訪れたときは恥ずかしながらフライナーデメッツの名も、このような経緯も知らず、帰国後に調べてはじめてわかり、驚いたのであった。迷い歩くことで得られる発見もある。



フライナーデメッツの事績を記念する石碑（漢文）（2010年）

一般的には、中国に対してはキリスト教のイメージがあまりないかもしれないが、信者は人口の七〜一〇パーセントといわれ、教会も各地に点在している。地図は現地に着いてから調達し（わたしはガラケーユーザーのため、オンライン地図が使えない）、「教堂」と書かれている場所にペンで丸をつけて、基本的には徒歩で、遠方の場合にはバスかタクシーで行く。なおわたしは超がつくほどの方向音痴なので、最終的には運頼りである。人に聞くという選択肢もあるが、口頭で東とか西とか何キロメートルとかいわれても理解できないのが方向音痴だ。また、こんなバクチ性の強い調査に公費を使うわけにはいかないので、かかる費用はすべて私費である。こうなるともはや、研究というより趣味である。



中国、済南市

## 山東省済南市で出会った教会

研究であれ趣味であれ、目指す教会に着くことができたときはうれしい。特に印象に残っているのは戴荘天主教堂である。二〇一〇年八月、とある現地調査の手伝いのため山東省済南市を訪れたのだが、調査がひと段落し自由時間がもたらえることになったので、市内の教会をまわることになった。最終的にカトリックはふたつ、プロテスタントは三つの教会を訪れることができたのだが、郊外北部にある戴荘天主教堂は、さんざん道に迷い不安と暑



戴荘天主教堂・礼拝堂の正面（2010年）

さと疲れて絶望しかけていたところ、突然目の前にあらわれたのであった。